

し、無事成務を奉告すると共に、得來の大成を祈ります。
 武家時代の三才・魁で、五才・博者、七才・精解の
 儀式が現代の七五三へと通りました。

十二月十三日 神迎祭(田)二月一日

お神迎えは神無月に出雲に向われた御祭神がお宮にお帰りになると出迎える祭事である。拜殿にて神迎えの祝詞が奏上され、境内では天かからの目印として、元かがり火がたかれ、地元有志による伝統の甘酒ふるまいが行なわれる。



33 12 13

祇園祭・氏子総代の新衣裳登場
 平成五年の祇園祭に氏子総代役員五人が袴(かまも)・陣立の立止で登場。氏子、市民の皆さんより御好評いただきました。今年には氏子町各町より一名が参加ということで、二名の着行が神輿のお供に登場の予定です。



33 12 13

建物紹介
 榛名神社の御神城。榛名社の歴史の建造物。最新の建造物を御紹介いたします。

榛名神社(御本殿)
 元和元年(一六一五年)沼田城主・真田伊豆守信春公の御城として、安土桃山文化の建築様式をとる銅板葺(ぶき)流造りです。東西四外側の彫り物は左菅五郎の作を伝えられており、また蓮・伝五郎やインド製の図柄が見られます。(写真・右)

木造大鳥居
 本多信守正永の御奉建。この度当社の金子安室名譽宮司御神社本庁より、長老の半世紀以上にわたる御社界への貢献に對して贈られたものを。



33 12 13



33 12 13

伊勢湾台風の時制水の憂き目を見たが再建され、今も御奉建の面影を残しています。名神社一の鳥居でした。(写真・右)

神楽殿
 境内前西向に建つのは昭和四月八日の大祭には、親田太々神保存会の皆さんによる、大々神楽の奉納が行われ、御社も行事されます。(写真・左)



33 12 13

日本庭園
 榛名の森には湧かおちていります。沼田ロイヤルホテルのロビイに見え、日本庭園として造られた。(写真・右)

33 12 13



33 12 13

枝社・大黒社
 つきに本殿東側に枝社として奉られていた大黒社。大黒社主、神代主、二柱が祀られています。沼田小学校の御影彰安殿を移設して社殿としています。(写真・上)

レストラン樹葉亭
 最後にレストラン樹葉亭。榛名の森の新しい仲間として今年5月にオープンした。ونس料理のお店です。(写真・左)



33 12 13

平成御大鳥居記念「大鳥居」
 昨年六月御成功した平成御大鳥居記念大鳥居は、高さ9.1メートル、笠木幅13.6メートル、柱幅7.5メートル、三十一名の奉賛者によって、大黒社のシンボルとなるべく建設されました。(写真・左)



33 12 13

役員名簿

- | | |
|------|-------------|
| 名譽宮司 | 金子 安平 |
| 宮司 | 金子 浩隆 |
| 権持 | 金子由紀子 |
| 権持 | 金子 三男 |
| 東倉内町 | 伊藤 忠 |
| 西倉内町 | 布施辰二郎 |
| 柳町 | 山崎重四郎 |
| 高橋町 | 石坂 虎雄 |
| 村木町 | 小林 昭男 |
| 桜町 | 小林 昭雄 |
| 上原町 | 北澤 進 |
| 東原新町 | 参与 吉良直太 |
| 西原新町 | 参与 吉良直夫 |
| 権名町 | 参与 手島 進一 |
| 清水町 | 参与 原澤 武 |
| 薄根町 | 参与 原澤 武 |
| 東倉内町 | 氏子総代 森平 進 |
| 西倉内町 | 氏子総代 三浦 春久 |
| 高橋町 | 氏子総代 高橋 善三郎 |
| 柳町 | 氏子総代 尾崎 好肇 |
| 村木町 | 氏子総代 林 昭雄 |
| 高橋町 | 氏子総代 小林 昭二 |
| 高橋町 | 氏子総代 井上 芳平 |
| 高橋町 | 氏子総代 上松 隆雄 |
| 村木町 | 氏子総代 若松 房雄 |
| 村木町 | 氏子総代 関口 利夫 |
| 桜町 | 氏子総代 松原 長太郎 |
| 桜町 | 氏子総代 松井 菊之助 |
| 上原町 | 氏子総代 生方 傳一 |
| 上原町 | 氏子総代 山本 栄次 |
| 東原新町 | 氏子総代 野田 隆六 |
| 東原新町 | 氏子総代 石田 清次 |
| 高橋町 | 氏子総代 小川 喜雄 |
| 高橋町 | 氏子総代 永井 喜太郎 |
| 高橋町 | 氏子総代 小林 政雄 |
| 高橋町 | 氏子総代 山本 廣久 |
| 高橋町 | 氏子総代 山本 廣一 |
| 高橋町 | 氏子総代 金子 茂太郎 |
| 高橋町 | 氏子総代 金子 主計 |
| 高橋町 | 氏子総代 高田 昇 |
| 高橋町 | 氏子総代 福山 正雄 |
| 高橋町 | 氏子総代 牧野 芳清 |
| 高橋町 | 氏子総代 渡辺 栄次郎 |